

国土を守るの挑戦

第7回建設トップランナーフォーラムより

全6回の6

フォーラム最後に行われたパネルディスカッションでは、東日本大震災の被災地復旧における問題点が示され、広範囲・大規模な災害だからその資材不足、



大石久和氏



和田 章氏



谷村隆三氏



深松 努氏



金田健治氏



米田雅子氏

パネルディスカッション

被災地の窮状浮き彫り

「建設業の声をもつと地域に」

影響していること、将来の日本のためにも建設業の声を地域に生かす必要があることなどに及んだ。

田章氏、全国建設業協会広報戦略検討会座長の谷村隆三氏(長崎県)、仙台建設業協会副会長の深松努氏(宮城県)、日本青年会議所建設部会長の金田健治氏(大阪府)の5人。コマー

「復興に不調不落が多い」

「現場のノウハウを吸い上げ、非常時のノウハウを作るべきではないか」と提案。これについて

米田氏が「建設業の声を地域に反映させる仕組みが必要」と話す。和田氏は「日本を丈夫にする仕組みが見当たらない。将来に生まれてくる子供にまで思いを馳せなければならない」と賛同。大石氏は「日本の国土を広く使い、効率的で

「建設業の声をもつと地域に」

「復興に不調不落が多い」

「現場のノウハウを吸い上げ、非常時のノウハウを作るべきではないか」と提案。これについて

米田氏が「建設業の声を地域に反映させる仕組みが必要」と話す。和田氏は「日本を丈夫にする仕組みが見当たらない。将来に生まれてくる子供にまで思いを馳せなければならない」と賛同。大石氏は「日本の国土を広く使い、効率的で

安全で快適な国土を造るべき」と提案し、「戦いまじょう」と会場に呼び掛けた。熱のこもった議論が終わった後、会場内の席を埋め尽くしていた参加者から拍手が湧き起こった。(「地方建設記者の会」取材班)

「地方建設記者の会」取材班は、神田浩司(北海道建設新聞社・北海道)、折目博(日刊岩手建設工業新聞社・岩手県)、栗谷卓臣(秋田建設工業新聞社・秋田県)、久保田伸二(建設新聞社・宮城県)、相澤隆(福島建設工業新聞社・福島県)、小林務(新報新聞社・長野県)、市成純(日本工業経済新聞社・東京都)、上月研二(日刊建設工業新聞社・鳥取県)、中國昌志(大分建設新聞社・大分県)、田原謙一(鹿児島建設新聞社・鹿児島県)、澤田久仁昭(建通新聞社・東京都) (以上敬称略)